

豊庄だより



第 685 号 2021 年 11 月 8 日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達



からこま座の人形劇には圧倒されました。今年で 7 回目。毎回、新たな感動があります。今年の演目は、「マシュマロとうるん」と「ふしぎのくにのアリス」の 2 本立て。昨年度からコロナウィルス感染対策のため、0 歳～2 歳と 3 歳～5 歳の 2 部に分け、1 部が「マシュマロとうるん」、2 部を「ふしぎのくにのアリス」としました。全部を見せてやりたいという思いはあるのですが、止むをえません。

「マシュマロとうるん」は、食べちゃいたいほどかわいいほっぺたの話です。まるでマシュマロみたいで、みんながさ

わりたがるけど、(小さな男の子の)フータ君は逃げ出します。すると、どこからか風船が飛んできて、「そうだ、これで空を飛んでいこう」とするのですが……。もも、さくら、すみれ組の子どもたちはその一挙手一投足にくぎ付けになっていました。

2 部は、「ふしぎのくにのアリス」。ばら、ゆり、ひまわり組が見ました。ディズニー映画にもなり、絵本でもよく知られたお話です。この日の様子が給食室横のホワイトボードに、次のように書かれていましたので紹介します。



☆ばら組：楽し

みにしていた観劇会は「不思議の国のアリス」で、かわいい人形やいろいろな小道具に子どもたちは興味津々でした。ハートの女王の登場には大きさにも驚き、小さくなって見ている子どももいましたが、お話が終わると、人形と握手する姿や「楽しかったね」と喜んでいました。

☆ゆり組：はじまりからすっかり物語の世界に引き込まれ、笑ったり驚いたりしながら夢中で見ていました。お話が終わると「たのしかった～」と話していました。ホールを出る前には、劇に登場したアリスやハートの女王たちの人形とタッチさせてもらい、とて

もうれしそうでした。発表会の劇も、お客さんに楽しんでもらえるように頑張ろう！と話していました。

☆ひまわり組：始まる前からカエルがひょっこり顔を出したり、どんな話だろう～とわくわくしながら待ち、いよいよ開演。アリスの不思議な世界観にすっかり引き込まれてあっという間の 40 分でした。どんな内容だったかは、子どもたちに聞いてみてください。人形劇に刺激を受け、「はやくまた劇の練習したい～！！」と話していました。

